

TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 24
WINTER

常磐大学
 ■大学院
 ■人間科学部 ■国際学部
 ■コミュニティ振興学部
 常磐短期大学

常磐大学高等学校
 常磐短期大学 附属幼稚園

[2002.1.18.]

発行/学校法人 常磐学園 ■編集/学園報編集室 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/

Welcome to our class!

Message

I really enjoyed this "intercultural communication" class. Everybody was very enthusiastic and gave their best efforts inside and outside of class. Good luck to everybody and follow your dreams in the future.

Duane Earl Isham



受講生に好評な講座がいっぱい！
 生涯学習センター
 * 学ぶ楽しさを発見。



フレンドリーに展開する「すぐに役立つ英会話」の授業。

大 学の持つ教育資源をフルに活用し、地域の学習ニーズに添えている「生涯学習センター」は、平成一三年四月のオープン以来非常に大きな反響を呼び、多くの講座で受講希望者が募集定員をオーバーしている。しかし応募が殺到する理由は、単に機会を提供しているからではない。人が関心を抱いている分野を捉えたバリエーション豊かな講座と、目的に応じて展開される講義内容が大きな魅力となっているのだ。例えば、資格取得を目標に傾向と対策を学ぶ講座や、初心者にも分かりやすい入門系の講座。そして、実用性を重視した内容と工夫を凝らした楽しい授業で好評を博しているのが短大講師のアイシャム先生が担当する「すぐに役立つ英会話」だ。

年齢、性別、職業に関わりなく、興味のある分野を学びたいという欲求は誰にでもある。そんな学習ニーズに応える「生涯学習センター」が、オープン以来多くの受講者を集め、いま大きな反響を呼んでいる。



短大でも講師を勤めるアイシャム先生

ス シの食べ方やコーヒーの入れ方など日常生活に即したテーマで行われる授業は、笑いながら自然に英会話を身に付けることができる。受講生一人ひとりに優しく語りかけるアイシャム先生は、まるでゲストを楽しませるホストのようだ。では実際に受講生たちはどう感じているのだろうか。「以前から英語には関心があり、ラジオの英会話講座などで独学で勉強していました。静由美子さん(五五歳)は現在、銀行に勤める主婦。「自分の発音で通じるか不安でしたが、いまは自信が付いてきて街で出会った外国の方にも話しかけられるようになりました。パーフェクトでなくても大丈夫だってアイシャム先生に教えてもらったんです」とはつとつと語ってくれた。また、会社員石川優二さん(四四歳)は「ワールドカップで外国の方に会場などを案内するボランティアのため、英会話を学びに来ました。とても実用的な内容で勉強になります」と充実している様子だ。「水戸に越してきたばかりなので、友だちを作ろうと、この講座に申し込めました。加藤和男さん(六二歳)は、現在リタイアして悠遊自適の生活だ。「アイシャム先生は明るくて楽しい先生。居酒屋で一緒に飲んだこともあるんですよ。世代や人種を超えて話ができることも大変良い刺激になるという。さまざまな理由から集まった受講生たちだが、ひとつ確かなことは、行動を起こせば必ず新しい発見があるということではないだろうか。」

◎シリーズ24 シモバシラ

冬の朝の風物詩、花の名にとどめて

関東地方の赤土では、適当な毛細管ができる性質のため、地中の水が上がりやすく、地表面の温度が零度以下になる機会が多いため、よく霜柱ができます。冬の朝、ザクザクッと霜柱を踏みしめて登校したことを思い出します。

霜柱は地中の水が細かい土の粒子の間を毛細管作用で上がってゆき、零度の地面に届いたときに凍ったものです。氷の上端に土の層をのせて、下方は氷の柱になっています。シモバシラの霜柱は、茎の中の水が凍って茎の外へ伸び出したものです。

冬、枯れた茎の根元に霜柱のように白い氷の結晶ができる特性があることから、和名がつけました。関東地方以西の太平洋側と、四国、九州の山地だけに分布する日本特産種の一つです。

山の林内に生えるシソ科の多年草。茎は高さ五〇〜七〇センチメートルになり、葉は対生して広披針形〜狭卵形、縁に鋸歯があり、先はするどく、葉柄はごく短い。九〜一〇月ごろ、茎の上部から総状花序を出して、片側にのみ白い花をつけます。



常磐の四季

二一世紀のテーマは 日常の『ゆとり』

「ゆとりのあるようゆとりのない生活を送っている現代人：ときわ祭の期間だけでも『心のオアシス』として楽しんでもらおう」という気持ちで込め「ゆとり」をテーマに開催した二〇〇一年のときわ祭。

「昨年四月には、地域の皆様に『ゆとり』を活用するさまざまな機会を提供する生涯学習センターを発足し、専門の教員による外国語やパソコン等の公開講座が受講生から広く好評を得ております」という、ゆとりに関する諸澤理事長のコメントのように、ちよつと足を止めることが、新しい発見との出会いにつながる：そんな暖かい雰囲気学の学園祭となった。

一日目はなんとか持ちこたえた天気も二日目には小雨まじり。来客数も心配されたが、人気企画が二日目に集中したこともあり、予想を上回る大盛況の中で第十九回ときわ祭は開催された。大学自治会・短大校友会主催で行わ



→学生ホールがバルーンアートでいっぱい
のハロウィンパーティー会場に!



れた特別講演は、北原照久氏による「夢の実現」。北原氏はブリキのおもちゃコレクターの第一人者として世界的に有名な人物。一九八六年には、多くの人にコレクションを見て楽しんでもらいたい：との思いから「ブリキのおもちゃ博物館」を開館するほか、おもちゃに関する本の出版やテレビ番組のレギュラーとしても活躍する時の人だ。まったくのゼロから出発し、自分の夢を叶えるまでのお話は、これから社会にはばたく学生たちにとって大きな励みとなった。



2001.
10/27 28
ときわ祭開催!

みんなのゆとりが ここにある

メール、携帯電話、インターネットと高速で行き交うたくさんの情報。確かに便利だけれど、何かに急かされている気持ちにもなる。そこで第19回ときわ祭のテーマは「ゆとり」。学生たちが提案するやすらぎの空間をご覧ください。



STAFF

- 大学委員長
岩井 哲也 =写真左=
(人間科学部組織管理学科3年)
- 短期大学委員長
山縣 美紀 =写真右=
(生活科学科食物栄養専攻2年)

相談ブースに詰めかけるという、非常に効果的な企画となった。今回、大学委員長を務めた人間科学部組織管理学科三年の岩井哲也さんは「今年で一九回目を迎えるときわ祭ですが、今回テーマとして『ゆとり』を掲げ、キヤッチコピーには『みんなのゆとりがここにある』を設けてときわ祭を創りあげてきました。生活水準の向上や情報量の増加などさまざまな要因により、ヒトを取り巻く環境が大幅に変わり、一日一日を生きることが大変な時代になりましたが、ときわ祭に登場して心身をいやし、明日への活力にしていきたいと思います」とコメント。そして短期大学委員長を務めた生活科学科食物栄養専攻二年の山縣美紀さんは「今年のテーマは『ゆとり』ですが、目まぐるしく動いている日常の中、少しでも『ゆとり』を感じられる時間を過ごしていただけたら幸いです」と来場者へメッセージを送った。



→たくさんの高校生が詰めかけた、オープンキャンパス・個別相談ブース



Circle Flash!

れている。部員のほとんどが初心者というところもあり、礼儀作法から徐々に点前まで習う。
また校外活動として、夏に行われる裏千家青年部主催の「若き茶人たちの集い」にも毎年参加している。



2001 ときわ祭

茶道という宇宙に
込められた
日本人のこころ。

忙しい中で流されていく、現代人の日常生活。しかし、本学にも人間本来のスピードで、ゆったりと時間が流れる空間がある。R棟奥に設置された「パントリー」、茶道部の稽古場だ。現在二五名の部員を擁する茶道部は、本学短大創設当初からの歴史を持つ由緒ある文化部のひとつ。普段の活動は週一回、毎週火曜日の夕方四時から約二時間の稽古が行わ



第8回
茶道部



←お点前の稽古

このイベントは未経験者にも茶道を知ってもらうことを主な目的とし、県内の小学校から大学まで十数校が集まる。内容は、茶室でのお茶会はもちろん、茶碗の絵付けや干菓子入れの製作なども体験できる催しだ。
現在、茶道部の部長を務めている人間科学部二年の野澤千佳さんは、「茶道は実際に見てみないと分かりません。人づつに聞いた話ではなく、じかに茶道にふれていただきたいですね」と語っていた。
副部長を務めるのはコミュニケーション振興学部二年の柏淵貴一さん。「いまの日本は国際化が急速に進んでいます。その中で、自国の文化を知ることが非常に大切なことだと思うんです」。柏淵さんは茶道をしている叔父さんに連れられ、中学時代からお茶会に出席していたが、実際にお茶を習い始めたのは入部してから。点前の最中は季節を敏感に感じられるほど、本来の自分に戻れるという。
創部当初から指導をしている石原宗知先生が語るように「謙虚な気持ちと思いやりのこころ」を茶道は教えてくれる。「一期一会」という日本の伝統的コミュニケーションを学びに、茶道部を訪ねてみてはどうだろうか。

Campus Topics!

1 姉妹都市交流二五周年

水戸市とアメリカ・カリフォルニア州アナハイム市の姉妹都市交流二五周年を記念して、平成十三年一月六日交流協会会長のビル・ダリー氏と交流協会役員のジェフリー・ヘフレン氏が本学を訪れた。

これに先立ち、平成十三年七月二日から八月二日までの一七日間、短期大学幼児教育学科一年の安田優子さんが親善大使に選ばれ、アナハイム市を訪問。英語研修、市内関係施設の訪問などを通じ、姉妹都市交流の推進に貢献してきた。アナハイム市で両氏のお世話になった安田さんは、懐かしそうに再会のひとときを楽しんでいた。
また、アメリカでラテン語の高校教師を務めていたビル・ダリー氏が特別講演を開催し、アメリカの歴史や文化を語学を通してレクチャー。英語の語源という切り口で語られる講演は学生



→左より、諸澤学長、ビル・ダリー氏、加藤国際学部長、村山専任講師

たちに大きなインパクトを与え、両国の理解への大きな架け橋となった。これを機に、今後、さらに両都市の親交が深まることを期待したい。

2 L棟食堂に巨大スクリーン登場!

平成十三年九月二〇日、L棟食堂に一五〇インチという巨大なスクリーンが設置された。これは常磐大学同窓会学生支援事業の一環として寄贈されたもので、ランチタイムにはTV番組な

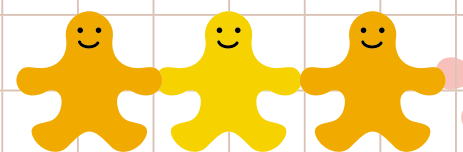


どが放映されている。この新しい情報メディアは、学生たちのコミュニケーションの場となる学生食堂を大いに活性化

Campus Topics!

するだけでなく、オープンキャンパス時には、本学PRビデオの上映にも役立っている。今後、アイデア次第でさまざまな活用方法が考えられそうだ。

High School Topics!



新鮮な話題がいっぱい詰まった常磐大学高等学校。学校内の素敵な施設やためになる講演会などハード、ソフトの両面から情報をお伝えします!

美しいステンドグラスが
なごみの空間を演出

常磐大学高等学校新校舎で来訪者を出迎えるのが美しいステンドグラスだ。このステンドグラスは、まっすぐ空に向かって伸びてゆく植物をモチーフに、学園で学ぶ人々の姿が投影されている。
また、卒業した後さらさら交流を深めていきたいという思いに込めるため、両手を広げて迎え入れるようなイメージも組み込んだという。
常磐のカラーであるみずみずしいグリーン色のステンドグラスは「なごみ」の空間を演出。常磐大高校の優しさと温かさをシンボライズしている。



●常磐大学高等学校

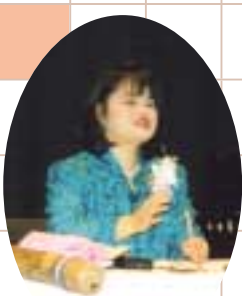
Tokiwa University High School

希望のはじまりとなった
三宮麻由子さん講演会

平成十三年二月四日、通信社に勤めるかたわらエッセイストとしても活躍している三宮麻由子さんの講演会が開催された。彼女は四歳の時に光を失いながらも優れた聴覚とプラス思考で語学を勉強し海外へ留学。大学院を修了し現在に至っている。



演題は「希望のはじまり」。嫌いな数学をリズムを計算する音楽に応用することで「好き」に転換したことや、音によって見えてくる風景の世界の話に生徒たちは真剣に聞き入っていた。
講演の後の質問コーナーでも視覚障害に関するさまざまな質問が飛び交い制限時間をオーバー。最後に披露した美しいピアノ演奏とともに、生徒の記憶に残る素晴らしい講演会となった。



さんのみや まゆこ
上智大学文学部卒業後、同大学大学院博士前期課程修了。著書「鳥が教えてくれた空」(NHK出版)他。

科学技術が発達するにともない、急速に発展する現代社会。パソコンや携帯電話などの普及で日々の生活が便利になる一方、複雑化した社会は人の心にも、大きな影響を及ぼしている。そこで、いま注目されているのが、カウンセラーの存在だ。

■人間科学部 渡邊 孝憲助教授に聞く

— カウンセリング心理学 —

自分の内面に目を向け 答えのない問題に取り組み

「理解」が引き出す クライエントの自発性

「僕の研究テーマは、カウンセリングにおけるカウンセラーとクライエントの関係です。どうしたらクライエント(相談に来る人)に対する理解が進むのか、またクライエントが理解されたと感じたとき、どう変化していくのか。つまり、理解を巡る相互のやりとりのプロセスを明らかにしたいと考えているわけです」

一般的に考えると患者に対して何ら

かのアドバイスをし、悩みや問題を解消することがカウンセラーの仕事のように思われがちだ。しかし、アドバイスは必ずしも有効ではない。「アドバイスは結局一般論になってしまいます。例えば『それはお母さんとよく話し合ったほうがいいよ』とか。でも、自分の性格や家庭環境などさまざまな理由で、それができない場合もありますよね。そうすると、そこで行き詰まってしまうんです」

人はそれぞれ育ってきた環境や現在置かれている状況などに違いがある。それを、たったひとつの回答に導くことは確かに強引でもある。それでは渡邊先生の言う「理解」とはどのようなものなのだろうか。「それは、クライエントが感じていることを、カウンセラー自身が感じているのかのように理解することです」

言葉にはいろんな感情が込められていて「今日は温かいですね」と言っても、温かくて気持ちがいい場合もあれば、その温かさが寂しさを際立たせる場合もある。その言葉に込められた感情をひとつひとつ確認していくと、クライエントは理解されたと感じ、誰



●授業風景

わたなべ こうけん
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。●専門は教育心理学、人格心理学、臨床心理学。平成十二年四月より現職。



カウンセリングは 自分の問題を刺激する

にも話せなかった恥ずかしいことや悪いことも話せるようになるのだという。「そこで大事なことは、決して否定しないことです。自分が良くないと思っていた気持ちが受け入れられたと感じれば、誰でももう少し喋ってみようと思えますよね。そうやって対話を続けていく中で、そこにも良いことや力になることがあることに気付いてもらうんです。すると、新しい生き方も見えてくる。つまり、クライエントが自分で気づくのを促す手伝いをするのが、カウンセラーなんです」

「実は、カウンセラーになりたいと思ったことがないんです。僕はもともとひとりが好きで、人と会うことが嫌い(笑)。心理学に関心を持ったのも、高校時代に立ち寄った本屋で、たまたま心理学の本が目にとまったから」その時は、臨床で人と会わなければならなくなることを考えてもいなかった。だから、カウンセラーとしてやってい

自分自身に目を向け 考えることを重視する

カウンセリング心理学の授業でも、学生一人ひとりが自分の内面に目を向け、考えることを重視している。

「僕の授業のレポートは、授業を通して学んだことを書く、それだけです。枚数にも制限はありません。たとえ一枚でも、学んだことがしっかりと書かれていなければいけません。それから、本は読まないようにと言っています。せっかくそれぞれの耳や目を持つているんですから、それを研ぎ澄ましてもらいたい。本は物の見方を歪めることもありますから」

また渡邊先生の講義は、理論や論法を解説するものとは大きく違う。先生自身が迷っていることを、そのまま講義で表現する。さまざまな考え方があり答えが出ない問題を、学生自身に考えさせるのだ。

「自分の目で見て、自分の頭で考えることが大切です。まずは、なぜカウンセラーになりたいのか。それを突き詰めていく。それから学生の皆さんには、自分が正しいと信じたことを実践する勇氣と、他人の意見を聞き円滑な人間関係を築ける謙虚さを持つてほしいですね」

最後に渡邊先生は「カウンセラーが必要とされない世の中を作ること」が、本当はいちばん大切だと語っていた。

第五回常磐フォーラム開催 講演 これからの経営と人事管理

— 森永乳業の人材マネージメント・システム —

平 成一三年一月一日、水戸三の丸ホテルで「第五回常磐フォーラム」が開催された。今回の講演は森永乳業株式会社代表取締役社長の

大野晃氏による「これからの経営と人事管理—森永乳業の戦略について」。

現在の森永乳業の戦略についてレクチャーしていただいた。内容は、まず企業を取り巻く厳しい経済環境の中で、量から質への転換という経営理念を社員に示し、利益が上らない事業の廃止と研究開発部門の拡大を並行して推進。さらに、従業員のやる気を向上さ



森永乳業株式会社 取締役 大野 晃

●ミニシンポジウムでの本学学生による森永乳業新商品開発プロジェクトの紹介



5th TOKIWA FORUM

せる新しい人事方針や、社員一人ひとりの実力を最大限に引き出す管理職の新人人材マネージメント制度を導入し、固定観念に囚われない体系化された新システムを構築する。こうした同社の取り組みは、業種業態を超えて大変参考になった。また同社はインターンシップの導入にも積極的で、小川明教授の協力により本学に「ヨーロッパ研究会」を発足。今後さらに関係を深めるよう検討中だという。そして、今回のもうひとつの目玉がシンポジウム。ここでは「本学学生による森永乳業新商品開発プロジェクト」と題し、ヨーロッパ研究会のメンバー、国際ビジネス学科四年齋藤美奈子さんと前澤綾子さんによるプレゼンテーションが行われた。今回は初の学生参加ということもあり、以前にも増して有意義な交流の機会となった。

編集後記

さまざまな出来事で幕を開けた二一世紀も、はや二〇〇二年を迎えた。国際情勢や日本経済は決して良い方向に進んでいるとは言いがたい状況だが、これまでのシステムを見直し、より健全な社会を築く絶好の機会とも考えられる。第五回常磐フォーラムで講演し

ていただいた森永乳業社長の 大野氏は、まさにそう考え実践しているひとりだ。現状を冷静に分析し、次のステップへと結びつける。本学とのインターンシップ制に関しても、いまだからこそ前向きに討議されるテーマなのかも知れない。人間の創造力は果てしない力を秘めている。それを信じ努力することが、私たち一人ひとりに求められているのではないだろうか。

*TOPOSに対する御意見は kouhou@tokiwa.ac.jp. までお寄せ下さい。

*古紙の利用・70%の再生紙を使用しています。